

平成26年5月9日

第17回「信用金庫社会貢献賞」の受賞活動決まる！
「江戸っ子1号プロジェクト」の
東京東信用金庫（東京都）が会長賞に

一般社団法人全国信用金庫協会

全国信用金庫協会（会長：大前 孝治）が実施している、信用金庫業界の顕彰制度
第17回「信用金庫社会貢献賞」の受賞信用金庫、個人受賞者がこのほど決定いたしましたので、お知らせします。

第17回「信用金庫社会貢献賞」受賞活動

賞の種類	信用金庫名（都道府県）	受賞活動名
会長賞	東京東信用金庫（東京都）	江戸っ子1号プロジェクト
Face to Face 賞	米沢信用金庫（山形県）	市民投票！リサイクルアート・コンテスト
	瀬戸信用金庫（愛知県）	シンボルフラワー「すみれ」の苗の寄贈
	北おおさか信用金庫（大阪府）	学生の起業支援「CVG大阪」の開催
	但馬信用金庫（兵庫県）	地域と一体化した湯村温泉活性化支援
個人賞	栃木信用金庫（栃木県） 栗原 利幸氏	里山保全と児童通学路の安全確保
	鶴来信用金庫（石川県） 軽音楽部「クレインズ」	音楽活動を通じた東日本大震災復興支援
	東濃信用金庫（岐阜県） 隈元 智子氏	小学校図書館ボランティア
地域活性化しんきん運動・優秀賞	盛岡信用金庫（岩手県）	ファンドによる起業支援への取り組み
	福岡ひびき信用金庫（福岡県）	ひびしん女性創業塾

本賞は、地域に生まれ、地域と共に歩む信用金庫が、さまざまな分野で地域貢献・社会貢献活動を実践している真摯な姿を多くの方々に知っていただくとともに、地域における存在価値を一層高めていくことを目的に、平成9年に創設いたしました。このような、地域に根ざした永年にわたる信用金庫の地道な活動に光を当て、これを顕彰することは大きな意義があると考えております。

今回は、昨年11月から本年1月までの募集期間に、152信用金庫・3関係団体から514件の応募がありました。その活動内容は多岐にわたっており、環境保全や社会福祉、金融教育支援、高齢化社会への対応のほか、東日本大震災からの復興支援、地域活性化への取り組み、次世代経営者の育成、取引先の販路拡大策など、どれも地域に根ざした信用金庫の不断の努力と叡智を結集したものとなっています。選考委員会での厳正な審査の結果、会長賞をはじめとする受賞7信用金庫、個人賞受賞2名・1グループの活動が決定いたしました。なお、来る6月20日（金）開催の第134回全信協通常総会において表彰式を執り行う予定です。

 <参考> 第17回「信用金庫社会貢献賞」応募状況

地区別応募状況

地区名	金庫・団体数	応募件数
北海道	13	36
東北	12	33
関東	27	74
東京	15	57
北陸	6	9
東海	25	103
近畿	24	108
中国	12	40
四国	3	9
九州北部	4	13
南九州	11	29
団体	3	3
合計	155	514

活動分野	応募件数
地域社会活動	289
スポーツ	52
社会福祉	23
芸術・文化	28
教育	36
環境	56
健康・医学	10
国際交流	1
史跡・伝統文化保存	4
災害救援	15
合計	514

本件についてのお問合せは、全国信用金庫協会 広報部 小西、斎藤、吉葉、鈴木、山本 (TEL.03-3517-5722 FAX.03-3517-5792)までお願いいたします。

第17回「信用金庫社会貢献賞」の選考総評と受賞活動の概要

1. 選考総評 信用金庫の持ち味は“つなぐ力”

選考委員 松岡紀雄氏（神奈川大学名誉教授）

社会貢献賞の応募件数が、初めて500件を突破した。ただ、応募信用金庫の数は今回も全金庫の60%以下にとどまっている。応募の作業自体が、自らの活動を振り返り、改善点などを見つけ出す絶好の機会となるはずである。活動の規模や華やかさなどとは関係なく、ぜひ毎年応募してほしいと強く願っている。

今回の会長賞には、東京東信用金庫の「江戸っ子1号プロジェクト」が選ばれた。大阪の町工場が人工衛星を開発したという話に触発された東京下町の中小企業経営者から、「大阪が空なら東京は海だ！」と、海底探査機の開発プランが持ち込まれた。同金庫が文字どおり信用金庫ならではの“つなぐ力”を発揮して、地元中小企業や3つの大学、政府機関等の連携を図って、深さ約8,000メートルという世界初の超深海の魚類等の3Dハイビジョンビデオ撮影を成功させたのである。地元企業の技術力向上に資することはもちろん、こうしたチャレンジが教材として学校教育にも取り入れられるなど、その波紋は大きく広がっている。応援定期預金と呼びかけ、募集総額の0.05%をプロジェクトに寄付するというのも、信用金庫ならではの展開である。

Face to Face賞には、4つの信用金庫が選ばれた。米沢信用金庫の「市民投票!リサイクルアート・コンテスト」は、環境に配慮した地域づくりを、地元産業界や大学、学生や教職員、一般住民を巻き込んで進めている。

瀬戸信用金庫の「シンボルフラワー『すみれ』の苗の寄贈」は、すみれの苗を地域の小学校や幼稚園、保育園などに贈呈するという、ささやかと言えなささやかな活動だが、50年にわたる継続が高く評価された。

北おおさか信用金庫の「学生の起業支援『CVG大阪』の開催」は、関西地区の大学生を対象に行われる、新しい産業の創造と、起業家精神あふれる人材の育成を狙った取り組みである。全国展開のモデルとなったその先駆性が評価された。

但馬信用金庫の「地域と一体化した湯村温泉活性化支援」は、過疎化による地域経済の沈滞克服を狙って、諸団体と連携して地域活性化に関する研究報告書を取りまとめた。その提言を基に、郷土料理のレトルト製品化など特産品開発や地熱を活用した発電事業にも取り組んでいる。

個人賞には、栗原利幸さん（栃木信用金庫）の「里山保全と児童通学路の安全確保」の活動、隈元智子さん（東濃信用金庫）の「小学校図書館ボランティア」、それに初めて職員のグループとして軽音楽部「クレインズ」（鶴来信用金庫）の「音楽活動を通じた東日本大震災復興支援」が選ばれた。いずれも自らの持ち味を生かした地道な活動の継続であり、その努力は高く評価される。

地域活性化しんきん運動・優秀賞には、2つの金庫が選ばれた。盛岡信用金庫の「ファンドによる起業支援への取り組み」は、地域の人口減少と事業所数減少による地域経済の沈滞が進む中で、大震災を契機に沿岸部の人材が地域に流入して起業を試みることを予想された。融資による支援の限界を感じた同金庫では、資本性の資金を供給することを目的に、「もりおか起業ファンド」を創設、関係自治体等とも連携して積極的な起業支援に取り組んでいる。

福岡ひびき信用金庫の「ひびしん女性創業塾」は、創業・起業を目指す「やる気のある女性」の創業支援を通じて、地域経済・産業の活性化、新規雇用の創出を図ろうとするものである。女性の力の活用は、IMFからも日本経済活性化のカギを握るものと指摘されている。塾の受講後のきめ細かな対応など、同金庫の取り組みの成果を期待すると同時に、そのノウ

ハウを全国の信用金庫に広めてほしいと願っている。

2. 受賞活動の概要

【会長賞】

東京東信用金庫（東京都）／江戸っ子1号プロジェクト

「江戸っ子1号プロジェクト」とは、江戸っ子1号と名付けられた無人深海探査機を下町の中小企業の手で作り出そうというもの。目的は、深さ8,000mの深海での生物の撮影や海底の泥の採取である。

発端は、平成21年、(株)杉野ゴム化学工業所の杉野社長が、東大阪の中小企業が人工衛星・まいど1号を打ち上げようとしていることを知り、「向こうが宇宙ならこちらは深海だ!」と決意したことに始まる。

その熱意を感じた東京東信用金庫の中小企業応援センターは、東京海洋大学、芝浦工業大学、海洋研究開発機構（JAMSTEC）との連携を取り次ぎ、また、趣旨に賛同した中小企業10数社が参集して、平成23年に「江戸っ子1号プロジェクト」推進委員会が発足。翌24年、コア企業4社、JAMSTEC、東京海洋大学、芝浦工業大学、東京東信用金庫による共同開発契約書が調印された。

そして平成25年、数度におよぶ実験を経て、房総沖200kmでJAMSTECの調査船「かいよう」から日本海溝へ完成した探査機・江戸っ子1号を投下。回収の結果、約8,000mという超深海の魚類などの3Dハイビジョンビデオ撮影に見事成功したのである。

これは世界初の快挙であった。

【Face to Face 賞】

米沢信用金庫（山形県）／市民投票！リサイクルアート・コンテスト

米沢信用金庫は、平成18年から、産学官金連携を核とする地域活性化および企業支援に取り組んできた。当コンテストは、その一環として実施された、環境に配慮した地域づくりをめざすイベントである。

米沢信用金庫の営業地域は、製造品出荷額約8,000億円のハイテク産業が集中する東北有数の工業地域であり、持続可能性の高い地域づくりを行う観点から、積極的に環境経営に取り組んでいる企業が多い。

しかし、緑が多く住みよい街づくりは、企業と住民の強い環境意識とコンセンサスがあって初めて効果が表れる。

そこで、産学官金連携活動を推進すべく、山形大学街中サテライトを拠点とした、山形大学、米沢市、同金庫の三者主催による「リサイクルアート・コンテスト」を企画・開催した。

主な目的は、①3R（リデュース・リユース・リサイクル）の啓蒙、②中心市街地活性化支援、③若年層における同金庫の知名度アップと環境配慮型経営のPR、④山形大学街中サテライトの活用促進、⑤科学と環境問題に対する意識向上、特に次世代を担う子供たちの理科離れ防止への貢献一である。

活動は、平成23、24年に続き、25年で第3回を数える。

【Face to Face 賞】

瀬戸信用金庫（愛知県）／シンボルフラワー「すみれ」の苗の寄贈

瀬戸信用金庫では、昭和36年に同金庫のシンボルフラワーを「すみれ」に選定した。それを機に、昭和38年より、地域社会の未来を担う園児・学童の情操教育に寄与するため、営業地域の保育園、幼稚園、小学校などに「すみれ」の苗の寄贈を行ってきた。以来その活動は、

平成25年で50年を迎える。

また、寄贈先から代表を選び、贈呈式も行っている。その様子は、同金庫のホームページやディスクロージャーなどで積極的に発信されている。また、毎年複数の新聞に掲載されるなど、卒園・卒業時期の3月に行われる季節の恒例行事として地域に明るい話題を提供している。

半世紀におよぶ活動は、地域コミュニティの要となる教育の場で毎年実施されるため、子供、親、そのまた親と地域の幅広い世代との一体感も築かれている。

また、平成24年度からは、産学連携先である愛知淑徳大学の学生さんと園児の交流が行われるようになり、世代を超えた新たなコミュニケーションの場を提供するものとして、今後さらに地域社会と一体になった活動に発展していくことが期待される。

【Face to Face 賞】

北おおさか信用金庫（大阪府）／学生の起業支援「CVG大阪」の開催

「キャンパスベンチャーグランプリ（CVG）」は、北おおさか信用金庫が日刊工業新聞との共催により、全国初の試みとしてスタートさせた、学生による新事業の提案プレゼンテーション大会である。

日本の将来を牽引する新しい産業の創造と、起業家精神あふれる人材の育成を目的に毎年開催されている本大会は、平成11年開催の「第1回千里キャンパスベンチャーグランプリ」から始まった。

当初は大阪府内の大学院、大学、短大が対象であったが、平成13年からは対象を関西地区に拡大した。

平成21年には、開催10周年を機としてOB・OG会も発足。

平成24年には、事務局が同金庫主催のビジネスマッチングフェアに出展し、今後のマッチングに向けた支援として、受賞プランや起業した学生の企業を紹介した。続く平成25年には、起業した卒業生のプランが商談に結びついた事例もある。

これまでの15年間の応募総数は3,827件を数え、うち329件が表彰されている。

【Face to Face 賞】

但馬信用金庫（兵庫県）／地域と一体化した湯村温泉活性化支援

但馬信用金庫の営業エリアのうち但馬地域西部は、過疎化が進み、地域経済は沈滞している。そこで同金庫では、観光を中心とした事業が回復し、地域がにぎわいを取り戻せるよう、活性化研究事業をはじめとするさまざまな取り組みを継続的に行ってきた。

平成22年には、湯村温泉及び周辺地域観光活性化研究事業研究委員会を発足させ、11回のワークショップの開催、地域住民・外部者・来街者へのアンケート、和倉温泉・山中温泉の視察、観光活性化シンポジウムを踏まえ、活性化に向けた報告書を完成させた。

続く平成23年には報告書の提言を実行するための実働部隊である「湯村温泉会議」を立ち上げ、各構成員それぞれが担当する次のような具体的施策に取り組んでいる。

- バイナリー発電への挑戦：グリーンニューディール基金8,000万円を活用し地熱バイナリー発電事業を実施。平成26年4月に公共施設にて稼働を開始した。
- 郷土料理“じゃぶ”の商品化（レトルト）と販促活動、但馬牛テールを利用した“愛しテールラーメン”の開発
- ジオパーク周遊マップの作成、「隠れハート」を探せイベントの実施
- 外部有名人を起用した湯村温泉ブランドイメージアップの企画・実施

これらの結果、飲食店3店舗オープン、廃業土産物屋・廃業旅館の再オープン、客数30%増加（平成24年度）という活性化につながっている。

【地域活性化しんきん運動・優秀賞】

盛岡信用金庫（岩手県）／ファンドによる起業支援への取り組み

盛岡信用金庫において、営業エリアの人口減少、事業所数の減少による地域経済への影響は深刻だった。また、東日本大震災をきっかけに、沿岸部から内陸部へ人の移動が起こり、中でも技術力や豊富な経験を持つ人材が、内陸部の盛岡で起業することも予測された。

そのことは地域にとって大きなプラスではあるが、融資による支援に限界を感じていた同金庫は、資本性の資金を提供することで起業支援ができるのでは、との考えからファンド設立を決定した。

平成24年、同金庫、盛岡市、岩手郡滝沢村、フューチャーベンチャーキャピタル（株）は、起業化をスムーズにし、その後の成長・安定につなげることを目的に「もりおか起業ファンド（正式名：もりおか起業投資事業有限責任組合）」を設立（出資総額は5千万円）。

同ファンドは経営関与を最重視したハンズオン投資で、ビジネスマッチやネットワークを通じた販路開拓（盛岡信用金庫）、インキュベーション施設の利用（盛岡市、滝沢村）などの支援により、起業時の資金確保や事業経営の課題に対応している。さらに、雇用の創出、地元経済・産業の活性化をめざしており、震災被災者の起業、雇用機会の確保にもつながることが期待されている。

【地域活性化しんきん運動・優秀賞】

福岡ひびき信用金庫（福岡県）／ひびしん女性創業塾

少子高齢化が進み女性の社会進出が期待される今日、起業をめざす女性は多いが、女性ゆえにさまざまな制約があるのが現状である。

そのような社会状況を鑑み、平成22年に福岡ひびき信用金庫では、起業意欲に燃える女性たちを支援するための「女性創業塾」を創設した。

具体的には、女性の視点による既存産業の革新や、新商品・新サービス・新産業の創出を支援。さらに女性だからこそできる事業のサポートを目的に、中小企業診断士などを招いての講演、創業・経営のノウハウのアドバイス、金庫職員による金融面のレクチャーなどを行っている。また、一定時間を受講した修了生には創業資金の調達支援も行われる。

「女性創業塾」は、平成22年の第1期開講から平成25年の第4期までに144名が受講。受講後の創業者は30名を超え、創業率は23.8%に達する。

さらに、卒業生交流会など、卒業生の組織化に向けた活動も活発である。

【個人賞】

栃木信用金庫（栃木県） くりはら としゆき 栗原 利幸 氏 / 里山保全と児童通学路の安全確保

栗原氏の自宅がある地区では、耕作放棄地の増加、野生獣による農作物被害の拡大が問題となっていた。また、小学校の通学路にイノシシが出没するようになり、地元では住民の安全を危惧する声も高まっていた。

これらの問題を解決し、健全な里山を次世代に引き継ぐため、平成22年、栗原氏をはじめとする近隣住民26名が「坂の入里山の会」を設立。地元小学校PTAと協力して野生獣進入防止柵の設置、下草刈、除伐、間伐などの整備作業を行っている。また専門家を招いての野生獣の生態研修会も実施している。

【個人賞】

鶴来信用金庫（石川県） 軽音楽部「クレインズ」

／ 音楽活動を通じた東日本大震災復興支援

「クレインズ」は平成26年で設立5周年を迎える軽音楽グループである。これまで高齢者介護施設訪問、地域行事での演奏など135回もの活動を行ってきた。

平成25年には、東日本大震災復興支援として、宮城県気仙沼市でコンサートを開催。同年の第8回しんきんビジネスフェア「北陸ビジネス街道2013」ではオープニングセレモニーに出演し、参加者からも好評を得た。

今後もこれまでの経験を生かし、地域社会の担い手として「感動とふれあい」を通じた社会貢献をめざす。

【個人賞】

東濃信用金庫（岐阜県）

隈元 智子 氏

／ 小学校図書館ボランティア

隈元氏は、小学生のご息女が学校から借りてくる絵本があまりにも傷んでいることを知り、平成9年、有志とともに本を修理して読み聞かせをするグループ「絵本ボランティア エルマーの会」を立ち上げた。また、平成15年には朝の会の時間に各教室に出向いて絵本の読み聞かせを行う「げんたろうの会」を立ち上げた。

現在、地元の多治見市立精華小学校において、各ボランティアが分担し本の修復作業と絵本の読み聞かせを定期的に行っている。その活動の輪は徐々に広がりを見せ、在校生や卒業生の保護者、地域住民ら多くの賛同を得ている。

以 上

＜参 考＞ **第17回「信用金庫社会貢献賞」について**

【創設目的】 地域に生まれ、地域と共に歩む信用金庫の原点を踏まえ、地域の発展に貢献する信用金庫の真摯な姿を広くアピールし、お客様や地域の信頼を揺るぎないものとするとともに、地域での存在感を一段と高めていく。

【対象活動】 信用金庫にふさわしい地域に根ざした活動で、地域振興、社会福祉、芸術・文化支援、史跡・伝統文化保存、交通安全、教育支援、留学生・在日外国人支援、環境保全、各種ボランティア等の地域社会活動および災害救援活動等の分野とする。

【表彰対象】 ・信用金庫および信用金庫役職員（個人・グループ）
・地区・府県信用金庫協会、中央団体

【選考基準】 活動の継続性（3年以上継続された活動であること。ただし、Face to Face賞の応募活動のうち、その特性から活動期間が必ずしも長期に亘らないもの、地域活性化しんきん運動・優秀賞は除く）、活動目的の社会的意義、地域との一体性（地域に溶け込んだ地域の方々と一体となった取り組み）、活動の困難度、援助を受ける側の評価・感謝の度合い、関係者または地域社会に与えた影響、活動内容・方法のユニークさ、などを総合的に判断する。

【応募期間】 平成25年11月1日から26年1月31日まで

【選考委員】 ※所属等は平成26年4月現在、敬称略

島田	京子	公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団 専務理事
高橋	陽子	公益社団法人 日本フィランソロピー協会 理事長
中村	利雄	日本商工会議所 専務理事
野坂	雅一	読売新聞東京本社 論説副委員長
堀田	力	公益財団法人 さわやか福祉財団 理事長
松岡	紀雄	神奈川大学 名誉教授
大前	孝治	一般社団法人全国信用金庫協会 会長
秋山	勝男	信金中央金庫 副理事長
澁谷	哲一	一般社団法人全国信用金庫協会 広報委員会 委員長

【各賞の内容】

会 長 賞・・・活動の社会的意義、地域との一体感、地域社会に与えた影響等を総合的に判断し、Face to Face 賞、地域活性化しんきん運動・優秀賞の受賞候補活動の中から最も優れた活動に対し与えるものとする。

Face to Face 賞・・・地域金融機関にふさわしい、地域社会に溶け込んだ、地域の方々と一体感を深めることに寄与した活動および地域金融機関の社会貢献活動として今後の取り組みが期待され、奨励される活動、ならびにその特性から活動期間が必ずしも長期に亘らないものであっても、環境・社会問題への取り組み、災害復旧支援など関係者や地域社会に大きく貢献した活動等に対して与えるものとする。

地域活性化しんきん運動・優秀賞・・・地域社会と中小企業の再生・活性化をめざす活動のうち、各々の地域社会の実情と信用金庫の特性に合わせたユニークで、他の範となる活動に対して与えるものとする。

個 人 賞・・・個人あるいはグループの取り組みで、信用金庫職員として他の範となる活動に対して与えるものとする。